

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
小児がん拠点病院・連携病院のQI（Quality Indicators）を評価指標として  
がん対策推進基本計画の進捗管理を行う小児がん医療体制整備のための研究  
分担研究報告書

「近畿地区における指標開発のための分担研究遂行」

研究分担者 家原知子・京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学・教授

研究要旨：2023年度は近畿ブロック21の連携病院において合計25指標についてQI算定を行った。同時に近畿ブロックでは大阪国際がんセンター（中田佳世先生）の協力で、小児がんの患者家族のニーズに関する調査研究も行った。QI調査では、療養環境に関しては、子どもの療養を支援する専門職が十分配置されているとは言えない状況であった。今後更なる充実が必要である。患者ニーズに関する調査でも患者からの保育に関する要求は多く見られ、令和6年度の診療報酬改定において、保育士を複数名配置している場合や夜間を含めて看護補助者を配置している場合には加算できるような仕組みが追加され、今後の保育支援の充実に期待する。

A. 研究目的

各指標について連携病院および拠点病院においてQI算定を行い、他施設との比較検討を行い、さらに、患者家族ニーズ調査の結果と照らし合わせることで、拠点病院および連携病院の診療の向上を目的とする。

B. 研究方法

近畿ブロック21施設の連携病院（カテゴリー1-A；9施設、1-B；6施設、類型1以外：6施設）においては、25の指標について評価を行い、他施設との比較を行った。なお、近畿ブロックにおいては、カテゴリー1の病院のうち、現況報告をされた症例数直近3年のうち、上位2年の平均が20以上をカテゴリー1-Aとすると定義し、拠点病院連絡協議会にて1-A 9施設、1-B 7施設をそれぞれ指定した。

さらに、大阪国際がんセンター 中田佳世先生を中心に、回答受付期間2024年6月12日～2025年3月1日に、共同研究機関（近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会参加医療機関）に入院中または外来通院中患者の保護者に調査票のQRコードが記載されている説明文書を配布し、研究対象者は、本人のスマートフォン等でQRコードを用いて、近畿ブロック小児がん患者家族ニーズ調査2024を読み取り、電子アンケート調査票にアクセスし、調査票に無記名で回答し、その結果を集計した。調査対象者208人に調査票QRコード付きのアンケートの説明文書を配布し、110人から回答が得られた。そのうち、条件を満たす、107人について集計を行った（回収率：51.4%）。

C. （倫理面への配慮）患者家族ニーズ調

査に関しては、大阪国際がんセンターの倫理審査委員会で承認済（承認番号：22017-4、承認日：2024年5月1日）

#### D. 研究結果

子どもの療養を支援する職種として、ホスピタルプレイスペシャリスト（HPS）、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）、子ども療養支援などの療養支援担当者が連携病院においては、配置されていない施設割合が存在し、その人数も全国平均2.27に対して、累計1の施設で1.95と近畿地区で低かった。患者家族ニーズ調査においても、28.9%の患者家族が、保育士が不足していると回答し、2022年度調査（40.0%）、2023年度調査（46.1%）と比較して10%程度減少した。令和6年度の診療報酬改定において、小児入院医療管理料を算定する医療機関に対し、保育士を複数名配置している場合には加算できるような仕組みが追加された。これにより、保育士が充足し、付き添い家族の負担軽減が図られることが期待される。

また、小児がん相談員については平均1.5人の小児がん相談員専門研修を修了した相談員が配置されているが、一方で7施設においては小児がん相談員専門研修を修了した相談員が0であった。患者家族ニーズ調査においても、がん相談支援センターの存在を知らなかったという家族が33%存在し、知っていたが利用しなかったが45%と、多くががん相談を利用していない状況であった。近畿ブロックでは相談員の定期的なミーティングを行い、各施設の相談内容や課題の共有を行っている。全ての連携病院に相談員が

配置され、患者家族の相談の中心となることが望まれる。

#### E. 考察

子どもの療養環境を支える専門職のさらなる充実が望まれる。がん相談支援センターの役割をより周知し、経済的支援や妊孕性温存など様々な情報を抜け漏れなく提供できるよう、多職種での連携が求められる。

#### F. 結論

小児の療養環境のさらなる改善が必要である。

#### G. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

#### H. 研究発表

##### 1. 論文発表

- ① 家原知子. 小児がん・思春期がん入門腫瘍内科学改訂第4版. 202
- ② 家原知子. 神経芽腫 最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針 改訂第3版. 2024
- ③ 家原知子. 神経芽腫の病態と診断、治療開発をめざして(解説). (0912-0912)45巻3号 Page14-21(2024.10). SRL 宝函. 2024
- ④ 大曾根眞也, 家原知子. 【移行期医療支援】小児がんサバイバーの晩期合併症と成人期移行の課題(解説). (0023-6012)133巻8号 Page499-507(2024.08). 京都府立医科大学雑誌. 2024
- ⑤ Makimoto A, Fujisaki H, Matsumoto K, Takahashi Y, Cho Y, Morikawa Y, Yuza Y, Tajiri T, Iehara T. Retinoid Therapy for Neuroblastoma: Historical Overview, Regulatory Challenges, and Prospects. *Cancers (Basel)*. 2024 Jan 26;16(3):544. doi: 10.3390/cancers16030544. PMID: 38339295; PMCID: PMC10854948.
- ⑥ Kamiya H, Komatsu S, Takashima Y, Ishida R,

Arakawa H, Nishibeppu K, Kiuchi J, Imamura T, Ohashi T, Shimizu H, Arita T, Konishi H, Shiozaki A, Kubota T, Fujiwara H, Yagyu S, Iehara T, Otsuji E. Low blood level of tumour suppressor miR-5193 as a target of immunotherapy to PD-L1 in gastric cancer. *Br J Cancer*. 2024 Mar;130(4):671-681. doi: 10.1038/s41416-023-02532-3. Epub 2023 Dec 26.

- ⑦ Naito Y, Osone S, Mitsuno K, Kanayama T, Mayumi A, Imamura T, Iehara T. Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation With Reduced Toxicity Conditioning for Pediatric B Lymphoid Malignancy. *J Pediatr Hematol Oncol*. 2024 Oct 1;46(7):e537-e540. doi: 10.1097/MPH.0000000000002936. Epub 2024 Aug 12.

## 2. 学会発表

- ① Tomida A, Miyachi M, Yoshida H, Yagyu S, Tsuchiya K, Terauchi R, Shirai T, Fumino S, Ono S, Hosoi H, Iehara T. Local control modality and outcome for axial Ewing sarcoma family tumor. *SIOP Asia 2024*. 2024年6月22日～25日; Yokohama.
- ② Iguchi M, Fumino S, Mimura K, Takimoto A, Takayama S, Kim K, Aoi S, Tomida A, Iehara T, Ono S. Impact of residual primary tumor on the long-term quality of life in patients with low/intermediate-risk neuroblastoma. *SIOP Asia 2024*. 2024年6月22日～25日;

Yokohama.

- ③ Oya S, Yoshida H, Tomida A, Miyachi M, Yagyu S, Katsumi Y, Kikuchi K, Tsuchiya K, Konishi E, Subbaya S, Yamamoto M, Iehara T. A novel conditionally replicative oncolytic adenovirus under the control of the SALL4 promoter inhibits the growth of rhabdoid tumors. *SIOP 2024*. 2024年10月17日～20日; Hawaii.
- ④ 生嶋 諒, 宮地 充, 富田晃正, 吉田秀樹, 土屋邦彦, 文野誠久, 小野 滋, 小西英一, 家原知子. デスモイド腫瘍との鑑別を要した *MEG3::PLAG1* 融合遺伝子陽性 fibroblastic variant lipoblastoma の一例. 第 46 回近畿小児血液・がん研究会, 2024年3月16日; 和歌山.
- ⑤ 藤原知咲, 宮地 充, 富田晃正, 吉田秀樹, 大曾根眞也, 土屋邦彦, 今村俊彦, 家原知子. 当院における小児がん患者の在宅移行, 在宅看取りについての検討. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 2024年4月19日～21日; 福岡
- ⑥ 富田晃正, 宮地 充, 吉田秀樹, 長谷川龍志, 池田和幸, 土屋邦彦, 宮澤真由美, 安田美緒, 辻尾有利子, 松尾恵美, 藁谷深洋子, 前田吉宣, 文野誠久, 家原知子. 当院における小児アドバンス・ケア・プランニング(ACP) シートの導入とその実践. 第 127 回日本小児科学会学術集会,

2024年4月19日～21日；福岡

- ⑦ 井口雅史, 文野誠久, 三村和哉,  
瀧本篤朗, 高山勝平, 金 聖和,  
青井重善, 富田晃正, 家原知子,  
小野 滋. 小児がん患者の晩期  
QOL に繋がる現在の治療 低  
中間リスク神経芽腫患者におけ  
る残存腫瘍の長期 QOL に及ぼ  
す影響. 第 61 回日本小児外科学  
会学術集会, 2024 年 5 月 29 日

～31日；福岡.

I. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得  
該当せず
2. 実用新案登録  
該当せず
3. その他